

## 茨城県議会議員

### とこい洋治 県政報告NEWS

皆さんとともに歩んだ4年間に感謝

これからもトコトン働きます!



▲常井洋治議員は、県道南指原岩間停車場線(岩間町)が通行不能になっている現状の解消に、熱心に取り組んできた。県土木部、役場、地元の方々と何度も現場におもむき調査を重ねてきた。皆さんとともに頑張ったこの4年間であったが、全線開通に向けて一気に明るい兆しが見えてきた。(14年9月。水戸土木事務所柴田課長(後ろ姿)、塩畑主事さんらと現地にて。)

## 公約の実現に向け全力投球! — 3度目の決算特別委員会で活躍 —

常井議員は、4年前の選挙で、13,630票という尊い信任を得て、トップ当選をさせて頂きました。その時に皆様に重点政策として公約した事項は次のとおりです。

1. 保健・医療・福祉の充実—特に県立中央病院の充実
2. 景気・雇用対策—特に中小企業支援対策の強化
3. 畜産試験場跡地の有効活用の促進と総合流通センターの早期着工
4. 日常生活を安心して送れる生活環境の整備

同議員は、これらの実現に向けて、皆さんとともに考えながら、全力投球をしてまいりました。そして、質問のたびにその状況をできるだけ詳細に皆さんに報告してきたところです。残る任期も最後まで精一杯の努力をする所存ですので、今後とも一層の応援をお願いいたします。また、今回、決算特別委員会で所属して活動することになりました。



野球でも投手として常に全力投球の常井議員。

# 一緒に創ろう!ふるさと西茨城郡友部町 岩間町 岩瀬町の新時代

とこい洋議員が、前回選挙時('98年12月)に公約として掲げた前ページの重点政策について、一般質問や委員会質疑を通して行った主張と経緯、現況と結果を要約して皆様にご報告いたします。



<県の対応>◎印は決定(有力を含む)又は実現済  
○印は進行中又は要望済

## 県立中央病院に本県初のPET導入の方向 — 保健・福祉・医療の充実

PET(ペットと呼ぶ。「陽電子放射断層撮影装置」)は、極早期のがんを発見するための有効な機器ですが、本県には、未だ1台もない状況です。常井議員は、14年第2回定例会の一般質問で、県立中央病院へのPETの導入を強く求めてきました。その質問を受けて、7月から「茨城県総合がん対策推進会議」で検討されています。

現在のところ、県立中央病院への導入は有力と言われていますが、常井議員は、今後とも強く働きかけてまいります。死亡者の3人に1人ががんで亡くなっている(本県のがん死亡者は1日平均約19人)現在、本県のがん診療をリードする同病院へPETを導入して、がん撲滅を図りたいと切に願っております。皆様のご支援をお願いします。

### [県立中央病院]

- ① 県民の命と健康を守る基幹病院として、救命救急センターを設置すべきだ。(○)
- ② 災害拠点病院、臓器移植指定病院として専用ヘリポートを設置すべきだ。(◎)
- ③ 心臓血管外科を開設して、心臓外科手術も行えるようにすべきだ。(○)
- ④ 本県初のPETを中央病院へ早急に導入すべきだ。(◎)
- ⑤ 中央病院一帯を「医療・福祉ゾーン」として再編・整備して、住民が安心して暮らせる医療・福祉のメッカとして、諸機能を充実させるべきだ。(○)

### [県立友部病院]

- ① 施設の老朽化が著しく、県立病院の名に値しない。早期改築すべきだ。(◎)  
(\*現在、現在地建替と中央病院近辺へ移転建替と2案あり、検討中。)
- ② 児童・思春期の精神障害に対応できる専用病棟を設置すべきだ。(◎)  
(\*14年6月 児童・思春期専用病棟「つくし」が開設されました。)

## 景気・雇用対策—中小企業支援対策の強化。— 親身な相談窓口の設置、融資枠、限度額引上げ

常井議員は、本県の事業所の99.8%が中小企業であることから、長期不況に苦しむ中小企業を支援することが雇用の確保のためにも重要であると訴えてきました。そして、民間金融機関の貸し渋り、貸しはがしの実態を知

事に訴え、国のデフレ対策の強化、県独自の支援強化を強く求めてまいりました。そして、議会閉会中も勉強会を催して、中小企業の実情を県の担当部局に知らせています。県も大分積極的な姿勢で応えるようになってきました。着実な同議員の政策提案の成果でもあります。

- ① 中小企業の資金繰り悪化は、深刻だ。国のデフレ対策は、うまく機能していない。金融の実態を把握して国へ改善策を求めるべきだ。(○)
- ② 職業紹介業務を国(ハローワーク)が独占している。県民により身近な県も紹介業務ができるように制度改善を国に要請すべきだ。(○)
- ③ 石岡信用金庫破綻に伴い、取引の企業が融資等資金調達に支障がないよう、県が県内金融機関に要請すべきだ。(○)

- ④ 中小企業の経営や金融に親身になって対応する相談窓口を設置すべきだ。(◎)

(\*14年4月から「中小企業セーフティネット相談室」が水戸駅南口の県産業会館に設置されました。(TEL029-224-5341) 中小企業経営診断士、税理士などが常駐し、弁護士などにも相談できます。)

- 9月補正予算で、融資枠の大幅増が実現しました。
  - ・パワーアップ融資枠70億円増⇒補正後240億円
  - ・セーフティネット融資枠90億円増⇒補正後120億円
 10月1日から、パワーアップ融資とセーフティネット融資の合計の限度額を2,000万円アップして8,000万円となりました。

## いばらき総合流通センター(友部町)が前進。友部サービスエリアとの直結化などの検討開始

県は、「茨城県総合物流計画～首都圏における国際的な物流ゲートウェイの形成を目指して～」を2010年を目標年次としてこの9月に策定しました。その中で、

- ① 総合的な流通・物流関連企業の計画的な誘致
- ② 柔軟な事業化戦略の展開—工区の分割、分譲単価の低減など
- ③ 友部サービスエリアとの直結化の検討(短期的課題)を打ち出しました。

※上記①～③は、いずれも、常井議員が一般質問等で再三にわたって提言してきたことを、県が理解し、県全体の物流計画の中で位置づけたものです。これによって、地元地域の活性化に向けた着実な進展が期待されます。

特に、常磐道へ友部SAから直接乗り入れできるようにすることは、日常生活にも重要です。皆さんとともに、物申してきた大きな成果です。引き続き実現に向けて頑張ります。

- ① 地域振興の観点からも、一日も早い着工を目指すべきだ。(○)
- ② 予定地の防火、防犯対策のための草刈りの実施を求めろ。(◎)
- ③ 予定地内に、通学安全確保のために防犯灯を設置すべきだ。(◎)
- ④ 関連道路等を先行整備して付加価値をつけるべきだ。(○)  
(＊14年度から石岡常北線バイパス(岩間町安居地内)の用地買収に着手する予定です。)

### 畜産試験場跡地の有効活用策で答弁 「地元地域振興の観点から民活導入も含め検討。 合併なども考慮、地元等の意見も聞いて進める」

常井議員は、友部町の中心部にある県畜産試験場跡地(約39ha)の有効活用策に熱心に取り組んできました。

前回選挙時には、11年12月に同試験場が八郷町に移転が決定しているにも拘らず、その後の利活用策について何ら検討もしない県の無策ぶりに疑問を提起しました。当選後4年間、同議員は、一般質問で3回、関係委員会では実に毎回、この問題を取り上げてきました。その要点は、この跡地が友部町と周辺地域の「宝物」であり、この地域の振興に役立てるべきだということでした。そして、

- ① 単純な売却はすべきでなく、地域振興を基本に考えること。
- ② ごみため場や荒地にならないように、当分の間暫定利用を考えること。
- ③ 跡地に関し県も町も地元住民等の知恵や意見を聞いて取り入れるしくみが肝要だということを繰り返し主張してきました。

4年かけて、知事はじめ県執行部の認識も深まり、やっとその方向に向かいつつあります。これも皆様とともに訴えてきた成果であります。これからが正念場です。一緒に進めていきましょう。

- ① 県の単純一括売却の方針を転換させ、地元地域振興の観点からの検討を開始させた。(◎)
- ② 地元地域住民の意見反映のしくみづくりを提唱(◎)
- ③ 暫定利用を実現させた。(◎)
  - ・ 景観や美観を保持するため、地元酪農家の草地として利用。
  - ・ 友部リトルリーグの練習場として継続使用。
  - ・ 地元の幼稚園、小学校の校外学習の場として利用。
- ④ 友部町と周辺市町村の合併支援策として跡地を活用すべきだ。(○)

### 日常生活を安心して送れる生活環境の整備

- ・ 日常生活に身近な生活通路や歩道の整備、信号機の設置、交差点改良などの安全快適な道づくりを進めてきました。
- ・ かけがえのない水と緑の豊かな自然環境の保全やごみの減量化、憩いの場づくりを提言し進めてきました。
- ・ JCO臨界事故後の原子力安全対策を熱心に質してきました。
- ・ 地元からの要望を受け、皆さんとともに現場で調査をして対応してきましたが、今回は紙面の都合上、個別には割愛させていただきます。

## 県道南指原岩間停車場線 通行不能道解消へ具体化

友部～笠間～岩間の環状型幹線道路として整備  
常井議員、今後も早期全面開通へ向けて情熱を傾注!

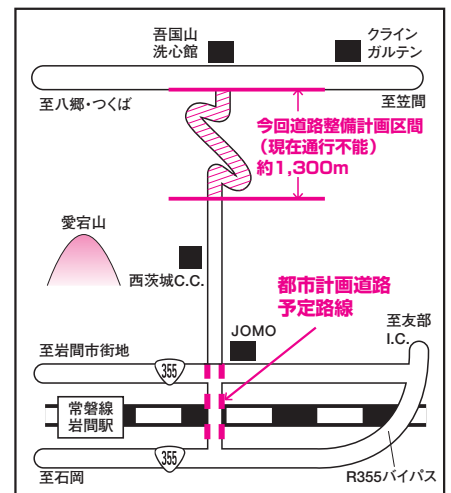
9月24日、岩間町長沢区公民館において、県道南指原岩間停車場線の道路計画説明会が開催されました。

説明によると、14年度測量調査、15年度から買収交渉に入る見込みです。今回計画は、通行不能区間約1,300mでおおよその工事費で約3億5千万円、工期は4～5年の見込みです。

常井議員から、特に自然環境に配慮した工法と予算の重点配分の要望が出されました。

県土木部長代理の須藤修一技佐から、県としても、重要路線として予算の重点配分をして、工期短縮に努める旨の積極的な説明がありました。

常井議員は、同席した仲田岩間町長さんらとともに、早期開通に向けた努力を約束しました。



### 「やすらぎと憩いの道」へ 常井 洋治 記

この度、上記道路が、全線開通に向けて大きく進展したことを素直に喜び、関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます。数十年間懸案となっていた通行不能道を開通させ、風穴をあけ、岩間に新風を吹き込むことは、地元の皆さんの悲願であり、私の夢でありました。私は、初めての一般質問で取り上げて以来、県土木部に対し、皆さんと一致結束して訴えてきました。この4年間で、急速に開通に向けて進展したことは、これをライフワークとして取り上げた私として、喜びはこれに優るものではありません。

この道路は自然環境に配慮した地元の生活道路として大きく期待されています。同時に、友部町・笠間市・岩間町のエリアにおいては、周遊型観光や産業発展のうえで、重要な幹線道路として位置づけられます。また、355号バイパスと都市計画道路で結ぶことにより、何よりも3市町の観光スポットを結ぶ住民のやすらぎと憩いのコースとなります。

しかしながら、県財政ひっ迫の中で県単独事業として実施するため、開通までには、相当な困難も予想されます。私は、今後とも一日も早い開通に向けて、精一杯の努力をしてみたいと思いますので、引き続き皆様のご協力をお願いします。

# 農林水産委員会 (H14.9.11~12)

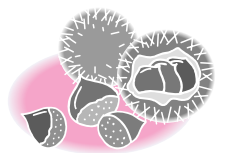
- 無登録農薬問題で「信頼の絆」の再構築を求める
- ため池と平地林の一体的整備で水と緑のネットワークづくりを!

●**地域の歴史、文化の発掘で、豊かな農村社会作りを!**  
 常井委員は、無登録農薬問題について、県の姿勢を質しました。答弁において、県内で無登録農薬を販売していた業者は、2つのJAを含めて36業者であり、一部の農家で使用した経緯があるが、そのメロンや梨などは自主回収措置をとった旨説明がありました。同委員は、農薬の適性使用を、農家に対し徹底指導し、先ず「農業従事者の健康を守る」視点を大切にして、その意識改革を前提に、消費者へ向けた安全な食づくりを考えていく必要性を訴えました。そして、今回の事件を奇貨として、茨城の農業を抜本的に改革すべきだと、次のことを述べました。

- ①地産地消運動を通して、減農薬、無農薬の農産物を県民に提供していくこと。
- ②農林水産部に、「安全安心な食づくり推進室」などを設置して、消費者に信頼される体制を整備していくべきである。農産物の「品質管理」においては、農薬管理が極めて重要であり、消費者との「信頼の絆」を築くことが、茨城の農業改革の基本となる。

また、同委員は、民有地の平地林を手入れする整備事業は、ため池などの水辺空間とセットで実施して、県民の憩いの場づくりを進めるべきだと述べ、水と緑のネットワークづくりを提案し、執行部も実施を約束しました。

併せて、農村地域の歴史、文化を見直し、分かりやすく紹介する看板を集落入口の道路際に設置(駅のホームの案内板のイメージ)して、地域住民が誇りを持ちながら他地区の人々との交流を活性化させ、豊かな農村社会をつくる工夫をすべきだと提案しました。



◀農林水産委員会は、10月1日の台風21号による農作物等の被害状況を神栖町と波崎町で現地調査した。最大瞬間風速(推計)50m/sの強風で、パイプハウスの大部分が倒壊し、収穫期を迎えたピーマン、トマトなどに壊滅的ともいえる被害を及ぼした。常井委員は、早急な救済策を求めた(左端)。(14年10月)



▲友部町ふれあい同志会(鈴木三雄会長(小原))は、30年来定期的に温泉などへの旅行を楽しんでいる。元気で明るいお年寄りである源である。常井議員は、柏井区の皆さんを見送りに出向いた。バス待ちのひととき。(14年9月)



◀岩瀬町ラスカにおいて、全日本空手道連盟剛柔会関東地区選手権大会が開催され、常井議員は、大会特別顧問として挨拶した。この大会には、小学生から大人まで、約400人が前日から岩瀬町などに宿泊して参加し、真剣な試合を行った。右側は、大会実行委員長の永瀬雅治さん(道志会茨城)。(14年9月)

▶岩間駅前通りの踏切り付近の歩道部の草が繁茂しているため、車道部を歩く人がとても危険だと、常井議員に連絡があった。水戸土木事務所へ草刈り等の処置を依頼。直ちに草刈りが実施され、現在、歩道部の拡幅を検討中。左側は、JR常磐線敷地。(14年9月)



## 燃える郷土愛。全力投球!!—「信頼の絆」をみなさんと築きたい!

'98年12月13日の県議会議員選挙で13,630票でトップ当選の栄誉を得て以来、早くも4年が経過し、1期目の任期も残り少なくなりました。この間、皆様には、数々の提言、要望、激励を賜り、日々の議員活動において、ともに考え、行動できましたことを、何よりも嬉しく、心から感謝申し上げます。残る任期も、最後まで、自らの公約の政策実現のために全力で取り組みたいと考えております。

この4年間で1番印象的だったことは、JCO臨界事故でありました。私は、事故発生前から、原子力に関心をもち、委員会において、原子力の安全対策、緊急避難用の道路確保、医療への平和利用、住民との信頼関係の構築の必要性を述べてきました。

事故が現実となったとき、国の原子力エネルギー政策の先端を担ってきた本県の県民の命を、国は進んで守ろうとはしませんでした。何ということだという憤りを強く覚え、議員の1人としていたたまれず、誰よりも早く県庁へ駆けつけましたが、何もできない無力感と悔しさに涙したことを鮮明に

覚えています。この体験は、その後の私の政治活動の大きな原点になっております。私は今後も、常に県民の目線で、県民の側に立つ政治の実現を求めてまいります。

さて、昨今は、政治家・官僚・企業・警察・教師・病院などの不祥事が続き、日本の人間社会で「信頼」が崩れようとしています。先日、新聞の投書で東京都小平市の布君という中学生が、「人間生活のきずなである『信頼』が日々薄くなっていく感じがして、将来が不安だ。それを取り戻すのは、真剣で誠実に取り組む大人の責任ある行動だ。」と述べていました。私は、この若者の言に心から共感を覚えました。有権者から信任を受けた一議員として、皆様とともに歩みながら、これからも「信頼の絆」をしっかりと築き、トコトン働いてまいる覚悟です。

引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



茨城県議会議員 常井洋治

常井洋治議員ホームページ「県政を語ろう」**新**アドレス●<http://business2.plala.or.jp/tokoiy>

※一般質問、委員会質疑の議事録は、このホームページからリンクして見ることができます。